

平成29年度授業改善推進プラン 英語科

昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・外国人講師との授業で英語の発音、コミュニケーション能力の伸長につながった。
- ・単語テストや定期考査の振り返りを行い、基礎的な力を定着させるための工夫ができた。
- ・毎日の宿題や予習における家庭学習の習慣化を意識させる工夫が必要である。
- ・基礎学力の低い生徒への個別指導が課題である。

英語の内容別結果の分析

内容	1年生	2年生	3年生
聞くこと	○話されている内容を聞き取ろうとする意欲は高い。 ○リスニング力は良好である。	○リスニング力は概ね良好な力をつけている。今後も継続的に、まとまった英文や会話文を聞き取る練習を行っていく。	○リスニングにおいては目標値を上回っており、ある程度まとまった英文を聞きことは概ね良好である。
読むこと	○簡単で短い文章を理解することは、現段階では概ね良好である。 ○音読に対して抵抗感を示す生徒はあまりいないが、1学期末の時点でローマ字読みが染みついてきている生徒もいる。	○音読を通して英語のリズムを理解しようとして取り組んでいる。 ○大半の生徒がまとまった文章を時間を意識して読み、内容理解をするよう努力している。	○さまざまな英文や長文の英文を読み取る力は、目標値を上回っており、まとまった文を読み取る力がついてきている生徒が多い。また、語彙の知識・理解においては、目標値を上回ったが、語形・語法の知識・理解においては、目標値を下回ったので、授業や家庭学習で定着を図る必要がある。
書くこと	○全体的に丁寧に文字を書いている。定着状況は良好だが、他の技能に比べると劣るので、今後の基礎練習の積み重ねが必要である。 四線を使った書き方は良好。文章の書き方を考えて教えていく。	○正しい語順に並び替える問題の正答率は概ね高い。 ○自分で文章を組み立てることに意欲的な生徒と、敬遠してしまう生徒の差が開きつつある。	○校内平均正答率がすべて目標値を上回っており、場面に応じて各英作文や、3文以上で自分の意見を書くことができる生徒が多い。 ○正しい語彙や文法を概ね身に付けているが、一部の生徒は苦手意識をもっている。そのため基礎基本の積み重ねが必要である。

英語の観点別結果の分析

観点	1年生	2年生	3年生
関心・意欲・態度	○英語に対する関心は高い。積極的に英語を使おうとしている。 ○英語を話そうとする意欲・態度は良い。 ○意欲の低い生徒の指導を工夫する必要がある。	○英語に対する意欲は高く、授業への取り組みは積極的である生徒が多い。 ○意欲が低い生徒に対して、興味を持たせるきっかけ作りから指導する必要がある。	○英語学習の重要性を意識している生徒が多く、課題や授業での発言など、積極的に取り組んでいる。 ○学習意欲が低く地道な努力ができない生徒に対して、継続した指導の工夫が必要である。
表現の能力	○話す表現力と書く表現力は、標準程度であるが個人差がある。より演習を取り入れる必要がある。 ○外国人講師を活用し、より実践的な表現活動の場面を設定していく。	○話すことには積極的に活動する生徒が多いものの、苦手意識をもつ生徒もいる。場面設定や身近な表現、また外国人講師の活用から伝わる楽しさを指導していく必要がある。 ○英語で書く、という作業に抵抗がある生徒が多い。練習の機会を増やし、経験を積ませる必要がある。	○話すことには積極的に活動する生徒が多いが、一部の生徒は苦手意識をもっている。今後外国人講師と連携し、実践的な表現力を高める活動を行う必要がある。 ○書く力は全体的に伸びてきているので、今後も英文作成の機会や発表の場を与え、経験を積ませていく。
理解の能力	○聞くこと、および読むことへの理解力は標準程度である。 ○普段の授業でも理解力の伸長のため、ピクチャーカードやICT教材を使用する。	○聞くことは概ねりょうこうである。 ○読むことへの理解力の伸長を図るため、日頃の授業内でまとまった英文に触れる機会を増やす必要がある。	○聞くことは、概ね良好である。 ○文章読解においても、概ね良好であるので、今後も長い文章や難解な文章に触れる機会を増やし、様々な文章の形になれさせていく。
知識・理解	○基本的な語彙や文法の定着は概ね良好である。 ○徐々に異文化理解の機会を増やす。	○語彙力、文法力は概ね良好であるが、苦手意識が強くなっている生徒も見られる。 ○異文化理解への関心を高めるため、導入の場面などを工夫する。	○語彙・基礎文法は、個人差はあるものの概ね定着している。 ○教科書導入の場面などで異文化の情報を提供し、考えを深めさせる工夫をする。

英語の課題と具体的な授業の改善策

学年	課題	具体的な授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○今後難易度が増していく語彙や文法項目を、スムーズに定着させていけるかが課題である。 ○基礎学力の低い生徒が参加できるような授業の工夫が課題である。 ○生徒の達成状況に合わせた指導の充実が必要である。 ○2クラス3展開の授業で差異が開かないよう、ICT教材の使用や工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習した新出単語や文法を、家庭学習などに取り入れ復習をする習慣をより定着させる。また、外国人講師を効果的に活用することで、実際に使う場面を教科書以外で設定する。それによりやる気の向上を図り、学習項目の定着につなげていく。 ○単語等小テストを実施し、その結果から個に応じた指導を行う。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力の定着度を向上させるために、家庭学習や復習を取り入れた導入など工夫が課題である。 ○学習意欲の高まるような工夫を取り入れることが課題である。 ○基礎学力の低い生徒への指導が課題である。 ○書くことへの苦手意識をなくす工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎回の授業で復習や発展内容の宿題を課し、家庭学習の習慣化と確実な学習内容の定着を図る。 ○スピーチやゲーム的活動を通して、積極的にコミュニケーションをとるような授業を展開し、話すことへの意欲を高めさせていく。 ○文を組み立てていく練習を取り入れる。最初は並び替えなどから段階を踏み、書くことに積極的に取り組めるよう工夫する。 ○補充学習を取り入れ個に応じた指導を行う。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○学習意欲を高める授業になるように工夫する。 ○基礎基本の定着はもちろんだが、それを用いて発展的な内容に取り組む。 ○基礎学力の低い生徒への個別指導が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ペアワークやクラスワークを取り入れ、積極的に英語を話したり、聞く機会を設ける。また、教材を工夫し、わかりやすい説明を心がけ、意欲的に取り組めるようにする。 ○単語テストや確認テストを行い基礎力の充実を図る。また、フラッシュカードやピクチャーカードを用いて、単語や英文の定着を図るとともに、自ら使えるように音読を多く取り入れる。 ○予習復習を行う課題を課し、目的意識を持って授業に参加することを意識させる。また、暗唱やスピーチを行い、つまづきを意識させることで自らの学習意欲に結びつけ、入試に備えた学習ができるように工夫する。